

刊夕 日二月四

常磐屋新聞

定価 一部金五銭 五拾銭 郵費五銭
 廣告料 五銭 十二字 一行 金五拾銭
 日曜祭日の日 休刊
 発行所 常磐屋新聞社
 印刷所 常磐屋新聞社

眞實と虚偽 [三]

中村 哲 彌

子供にとつてはそれは眞偽や、善悪の問題ではなくして唯だ自分の望みのものを獲得することが出来るか否かが問題なのである。兒童は或種の方法は効果のある。だといふことを悟るのである。或は如何にして不愉快な結果を避けるかといふことが問題である。こゝにも亦或る特定の方法は所望の結果を齎すことを悟つてしまふのである。

兒童の虚言を誘ひ出すものは、常に必ずしも物質的満足の追及のみではない。ほんの感動を起させようためのみに、彼れは實際やうに法螺を吹いたり、他人の吃驚させたり不思議がらせたりするやうな話をするのである。兒童は他人々が素晴らしい話をする事によつて、大に注目を惹き、場合によつては讚美されてさへあるのを、眼のあたり見てゐるではないか、さすれば、彼れが自分でも一つ喝采を博するやうな上手な話を編出しようと考へるのは果して無理とい

ふものだらうか？ 此處にも亦、兒童の心中には眞實の問題があるのではなくして、所期の効果を産み出すやうとする願望があるばかりなのである。即ち彼れの創意が挑戦され、彼れはそれに対して最善を竭すわけである。

兒童は餘りに臆病で弱氣であるために嘘をいふ場合もある。反對にみせびらかしのためにうそをいふこともあるといふことを吾々が知つたら、此の兩方の場合に對して、同一の取扱をするといふことは出来ないといふことが實認出来るだらう。

吾々は兒童に對して、物語は物語として之れを創作し、創作としての出来栄に從つてそれ相應に認められることを期待するやうに導くことも出来る。また創作時代の年頃の兒童にとつてはそれはほんとうに大切な事柄であるから、正確適切な方法によつて自己を表現する場合には吾々はそれ相應に推賞して助け導いてやることも出来る。斯くて吾々は兒童の即興的に思ひつぎを云ふ誘惑を除去し正直と作り話をそれぞれの目的に從つて明確に區別し乍ら、それ／＼正當に評價するやうに兒童を指導せ

ねばならぬ。吾々は自らの言動に於て飽迄も眞理に忠實ならんことを努むる一方、誘惑の機會を出来るだけ少くし且つ眞實を辨別することを教へるやうにして、兒童を保護してやらねばならぬ。

最も普通に見られる子供のきよげんの一つは刑罰を避けようがために考へ出されるうそである。或る言葉や陳述は非難か或はより以上に悪い結果を齎すといふ大切な發見をしないやうな兒童がありとするればそれ

は寧ろ頓馬である兒童がその悪行を鳴らされた場合に自分の罪を否定する事實と密切に關聯してゐることである。兒童の間に随分廣がつて居り乍ら、然も彼らによつて意識されてゐない原則に敵にはぎよ言をつけ、眞實は味方のためにとつとけといふのがある。

だからして吾々は子供を取扱ふ際には、何とかして兩親や教師は彼れの味方であり、友人であつて、これを欺すよりも眞實に正直に應對することが遙かに有利であるといふことを感じさせねばならぬ。

文藝募集

吾々は兒童に對して、物語は物語として之れを創作し、創作としての出来栄に從つてそれ相應に認められることを期待するやうに導くことも出来る。また創作時代の年頃の兒童にとつてはそれはほんとうに大切な事柄であるから、正確適切な方法によつて自己を表現する場合には吾々はその相應に推賞して助け導いてやることも出来る。斯くて吾々は兒童の即興的に思ひつぎを云ふ誘惑を除去し正直と作り話をそれぞれの目的に從つて明確に區別し乍ら、それ／＼正當に評價するやうに兒童を指導せ

外科 専門 X

科線光

上田外科病院

平町南町
電話一四九番



玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

喜多流 謠曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します

平町田町六九

白土會

入會隨時
電話一二七番

和漆器家具は 和久井屋

平町喜町目
電話四〇五番

外科 一般
内臓 外科
花柳 病科
肛門 病科
レントゲン 科
物理療法 科


北川 外科

平町新川町二七
醫學博士 北川芳夫
醫學士 奧義弘

イツデモ入院 出來マス
電話四六四番
ヨロシ

嬉ばしき御卒業と
上級學校御入學の
御祝は是非！
最も正確な常盤屋の時計を
四月一日—十五日迄
お買上の時計にお祝として保險付
高級十四金ペン付
ロンドン万年筆送呈

クロム側 精工合 10形腕時計 7・500ヨリ
クロム側 セイコー 女學生用腕時計 8・000ヨリ



常磐屋時計店

平町一丁目 電話三三九

吸入用酸素純度 99%

モノサシ
マラス
ハカリ

度量衡器

体温計
寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町一六二番電話一七〇番

眞一文字の

直通線を支持

平町から陳情團上京

平小鐵道の促進陳情

平町は愈々本年度着工豫定の平小鐵道敷設路線に關して昨日午後一時より同町會議室に促進委員會を開き協議の結果さき路線は大體湯本迂回線に決定した模様らしく傳へられて居た折柄運輸交通の利便を廣汎な新範圍に均霑せしめ且つ地方發展に資する建前から最近は鐵道省部内にも片濱迂回線が最も有力視されつつあると情報に接したので平町としては將來石炭礦區が

鹿島村に擴張されることより見て鹿島貫通の直通線が今後の町發展上重大關係ありとし青沼平町長外井上野崎正副議長その他の委員が本日午前五時上京、關係當路者に陳情することになつた

尙平町としては直通線が不確實の場合片濱迂回線を地方産業開發並に交通運輸の建前から最も至當であることを陳情力説することになつた

人絹目標の

諸計劃が畫餅

錦村今日の成行き靜觀

錦村では昭和八人絹工場開設以來人口の増加と共に將來の發展を見越して種々計畫を樹てゝゐたが今回の同工場大火で職工二千餘の解雇を見ることになつたため折角の諸計畫も模様替するはめに立至つたがそれとて同工場の復活方針決定後でなければ正確な計畫樹立は望めなくなりひとまづ靜觀して今後の對策を樹てる

明日の佳節に 御親閲記念式 石城郡教育會は明日の全國小學校校長御親閲の記念日に際し午前十時より平第一小學校々庭で記念式を執行することとなつたが元官立東京官學校校長秋葉馬吉氏が記念講演を行ふと

第一校の

正副級長

けふ任命式

平第一小學校は今日朝禮の際新學期の正副級長任命式を行つたが名譽の兒童左の如し

- △尋常三年(二組)石山達雄
- 鈴木彰(二組)國井英吉
- 渡邊真一(三組)正木和夫
- 金成芳男 △四年(一組)新妻唯一 市原二良(二組)
- 大嶺慶一 古市光五(三組)大和田一郎 作山和男 △五年(一組)草野昌平 川崎繼男(二組)佐竹五郎 佐藤信男(三組)藤井喜一郎 柴田實(四組)小林茂 石井吉男 △六年(二組)野田臣男 馬目欣之助(二組)小園井邦男 橋本壽(三組)武田國彦 牧野好夫 △高等一年(一組)寺門武彦 小林忠義(二組)新妻唯男 根本幸一郎 △同二年(一組)竹村彌實 伊藤俊雄(二組)松崎文吉 長谷川勝三

女子代表

目下詮衡中

福島縣聯合女子青年團大會は来る廿六日若松公會堂で開催されるが本郡聯合女子青年團では恒例により代表者を出席せしめ體験談研究等の意見發表をさせる爲め目下詮衡中

汽罐協會

役員の氏名

平署管内汽罐使用者並に燃料營業者及汽罐製作者を以つて昨年十一月組織された

- 平汽罐協會は創立以來關係當局と連絡し汽罐關係の調査研究を續け、災害その他事故を未前に防止する等會員相互の親睦を圖つて居るが同會の役員左の如し
- △顧問柴田平署長△會長山本薫(片倉磐城製糸株式會社)△副會長服部梅雄(品川白煉瓦株式會社)
- △常務理事色川光次(色川木材株式會社)△會計理事岡田千藏(岡田牛乳店)△理事長谷川浩太郎(原金藏 長榮重 難波留吉 小谷野真吾 芹澤嘉彦)

ポスター展

明日から開く

二日間午前九時から午後八時迄マルトモホールに開催我國代表作品各國優秀作品其他廣告參考資料を多數出品閱覽に供すが入場無料の由尚兩日共午後六時半から奥山儀八氏を招き廣告の話及び廣告の作り方に就いて講習會を開くと

鐵工機械

組合創立

豫て設立準備中であつた平鐵工機械工業組合は愈々創立總會を開く段取りとなり来る五日午前十時からマルトモホールに於て發起人の經過報告後定款制定の件役員選舉の件其他種々協議すると

平町人事

△長橋町五〇 高野今朝藏 氏五女ミヨ子さん

産人科

院長 木村寅次郎
醫學博士 内木宗八
藥劑士 大岩俊雄

平町新川町十九

木村病院

電話一六四番

春は歌へ！ 若人よ！

ハーモニカと呼べば！
ミヤタと答へ！

廣い野原に
寝そべつて

小鳥と一所に
歌ひませう

ミヤタバンドハーモニカ特約店

いづみや玩具店

平驛前

奉祝平町鎮座縣社子銚倉稻荷神社

廣告祭假裝行列大會

- 一、四月十七日(宵祭) 參加店主參列商連隆盛祈願式
- 一、四月十八日(渡御祭) 廣告假裝行列町内行進の上審査會を縣社境内に於て行ふ

一、賞品 一等榮譽ある平町長優勝旗並に賞金拾圓副賞付、二等以下十等迄高級賞品を進呈、參加者には中食付記念品進呈時間、行列行進順序、審査員、賞品其他追つて詳報す。奮つて御參加を乞ふ

後援 平町役場 縣社子銚倉神社 平各新聞社 主催 いはさ新報社 高木

波打ち際に

語らう情死者

昨報江名濱の駆落男女

危い處を取押へらる

昨日夜十一時頃久之濱町海岸地内を闊にまぎれてひそひそと語りながら徘徊する男女連を附近の漁夫が発見「心づき者らしい様子である」と同町駐在所に急報したので署員が尾行するとなほも何か涙の中に低聲に語り合つたんだん波立薬師寺附近の鰐ヶ淵近くに接近したのを後から取押へ保護を加へたが

右は江名町大字中之作字新町船主吉田政太郎(三)と同町大字江名字北町山口屋抱藝妓榮こと山本敏子(三)の兩名で昨報の如く兩名は相思の仲となり確い約束までしてゐたが最近になつて男に姻談話が持ち上り愈々婚禮の段取りに至つたので女と相談した結果知らぬ他國で夫婦にならうと卅一日夜手に手を取つて逃走家出を決行したが追手の追求激しく逃げ切れぬと断念して投身自殺を圖らうとしたものである事判明急報に接して駆付けた家の者に引渡された

調子の狂つた人生悲喜劇

春は案外悪戯者よ

續々増した捜査願

春・春・春。春は春の華やかなウエールに抱擁されて世はまさに浮き立つ心をかかしきれぬ人々が、やがて来る櫻花の前奏曲を奏でゝゝる。兎角四月は人々の浮き立つ心を押さへるには餘りにも陽氣すぎるが、ともす

ると調子の狂つた人生悲喜劇をかもしだし家出の數も續々増して此の頃の平署は是等の處理に多忙だがけふも相馬郡中村町清水居住清水忠助内妻同郡飯豊村生萩内シヅ子(三)は數日前夫の不在中荷物を持つて無斷家

出平方面で女給をしてゐるらしいといふのと、伊達郡小網村字浦地萬五郎長男農佐藤正雄(二)が同郡明治村道路改修の救済工事監督として従事中去月六日工事場

今年の新入兒には

親孝行が多い

親爺さんの職業が最も御理想とある

平第一小學校では今年入學した一年生から「大きくなつたら何にならう」と將來の希望を聴取した處約七割は返答に親した模様で「ハニカン」だ儘返辭をしなかつたが矢張り大將、兵隊さん等と答へ

る向が最も多く其他残りの大部分は父兄の職業と思はれる「機關手」「指物屋」「電氣屋」「洋服屋」「百性」等何れもが家業のあと繼ぎを以つて任ずる處味ふだけで未頼もし

春を満喫する

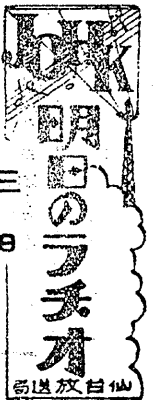
絶好の慰安日

測候處の保證付く

さてプランは如何に?

うららかな陽春四月、今は櫻花のふくらみ待つ麗かな日和續き、明三日の祭日と五日の日曜は年度末で忙

しかつた勤人に對してのこよなき慰安日である、のどかな春を満喫させてくれる夏井川ベリの新ハイキング



明日のラジオ

今晚は南の風晴薄く
明は南の風薄岡曇り

熊本縣菊池神社中繼
前二〇〇〇 紀念講
「神武天皇の御事蹟」井上通泰
前二〇〇 科學講話
「日本太平洋岸と日本海岸」脇水鐵五郎
前二〇〇 講演「森川源三郎翁の話」島山小一郎(秋田)
前二〇〇 選抜中等學校野球球戰 甲子園球場中繼
後二〇〇 雅樂 宮内省樂部
後二〇〇 吹奏樂 戸山學校軍樂隊
後二〇〇 新日本音樂

吉田晴風他
後二〇〇 獨唱と合唱
水野康孝
後二二五 ラヂオ詩吟大會 東北豫選仙臺 秋田
後六〇〇 ラヂオスケッチ「東京見物」東京放送童話劇協會
後六二五 講話「日本文化の一考察」中山久四郎
後七〇〇 謠曲「田村」觀世左近他
後八〇五 神事舞「國栖奏」山本平兵衛他
後八二〇 琵琶「羅生門」豊田靜芭
後八五〇 掛合義太夫「日本振袖始」(大蛇退治の段) 竹本角太夫他

今晚の部
後六〇〇 子供の時間
新絃樂 高嶺樂團
後六二五 農家の時間
「土に親しむ」鎌田三之助
後七三〇 講演「森林を愛護しよう」長瀬貞二「愛林デー」を迎へて「石原清逸」
後八〇〇 立體物語「植林譜」佐々木積その他
後八三五 俳諧 田原伊

明日の部
前七〇〇 小鳥の啼聲
熊本市坪井横町山本邸中繼
前九三〇 勸學祭實況

熊本縣菊池神社中繼
前二〇〇 紀念講
「神武天皇の御事蹟」井上通泰
前二〇〇 科學講話
「日本太平洋岸と日本海岸」脇水鐵五郎
前二〇〇 講演「森川源三郎翁の話」島山小一郎(秋田)
前二〇〇 選抜中等學校野球球戰 甲子園球場中繼
後二〇〇 雅樂 宮内省樂部
後二〇〇 吹奏樂 戸山學校軍樂隊
後二〇〇 新日本音樂

吉田晴風他
後二〇〇 獨唱と合唱
水野康孝
後二二五 ラヂオ詩吟大會 東北豫選仙臺 秋田
後六〇〇 ラヂオスケッチ「東京見物」東京放送童話劇協會
後六二五 講話「日本文化の一考察」中山久四郎
後七〇〇 謠曲「田村」觀世左近他
後八〇五 神事舞「國栖奏」山本平兵衛他
後八二〇 琵琶「羅生門」豊田靜芭
後八五〇 掛合義太夫「日本振袖始」(大蛇退治の段) 竹本角太夫他

コース、典雅な櫻花の香氣高い松ヶ岡公園、或は石森山、赤井嶽、更に新舞子の汐干狩等も満更であるまいそれにしても心配なお天氣を小名濱測候所に伺ひを立てるとけふ午後からの曇り勝ちも明三日はカラリとした晴天四日、五も大丈夫とこのことで待たれた休日も絶好の行樂日和とある

窃盜少年取押 内郷村大字高坂字中町一三農甚吉二男鈴木一夫(一)假名は窃盜犯人として平署で捜査中だつたが最近に至つて茨城縣磯原町字木皿の姉の夫瀧田修一方に潜伏して居るを探知本日磯原署に手配の上平署から引取りに出張した

月から盲腸炎で療養中昨今餘症併發して重態に陥り昨日午後九時遂に永眠した享年三十二、遺骸は二日茶毘に附し近日葬儀(期日未定)が行はれる
氏は双葉郡龍田村井出生れ昭和二年十二月本縣巡查を拜命して平署に勤務七年一月刑事昇進次來敏腕を揮つて將來を嚆望されてゐた丈に今回の逝去を惜しまれてゐる、尙美幸夫人(二四)さんとの間に二男一女がある

十八歳が頭で

手下を唆かし

村内を荒し廻る

豊間村では最近頻々と少年窃盜團が人もなげに横行村民の眉をひそめさせてゐるので平署が捜査中の處昨日午後容疑者として同村青場美利(一)假名外三名を本署に連行取調の結果美利は十八才の年少にもかゝらず手癖が悪く同時に檢

豊間村に窃盜被害頻々
擧された年下の少年三名を唆かして去る廿六日同村漁業家常陸屋方からロープ(價格卅圓)を窃取したのを手始めに數件の窃盜を働いた旨自白した

大谷刑事逝く 平署刑事大谷次男氏は昨年十一月

平職業紹介所報告
回 人を求める方
△コック 廿五才迄 月給十圓 尋卒
△配達兼農夫 廿才前後 月給五圓
△トラック助手 廿五才迄 日給六十七十錢 尋卒
△助手 十八才迄 月給五圓
回 職を求める方
△醬油醸造 卅一才 尋卒
△女工 廿二才 尋卒
△採炭夫 卅八才 高卒
△土工夫 廿三才 高卒
△コック 卅才 高卒



八七 陽気なあそび
 (続上) 丸尾至陽 (作)
 悟道軒圓玉 (作)

吉原の堤下の駕昇はお花から貰った金をかぞいで見ると一歩銀と二歩金で十二兩二歩ある、二人はこゝ當分大金持になつたと大喜び營業もせず飲んで歩き酒に溺れてゐたが文太郎にはなじみの女がある、それは吉原伏見町の鬼山城の抱え瀧川、山城屋が屋敷であるが主人が抱えの女を虐待するお客を取つて賣れる女は大切にするが二晩三晩とお茶を引くと責罵へつれて来て打ちたたき裸にした上小町針を綿で包みそれだからだをなでる、女は悲鳴をあげます、それを鶯の初音と思ひ主人は喜んでゐる、さういふ残忍な奴としてこの店を鬼山城といふ、その瀧川といふ娼妓のもとへ折々文太郎は通ふ、吉原の花魁にも階級があつて細見といふものを見ると娼妓の名の上に入山形がついてその下に星が二つあり、肩に呼び出しとしてあるが太夫です、入山形に二ツ星は全盛な花魁なることを表はしたものでこの女は遊藝一切何事も心得てゐる、こゝろいふ花魁の客になるには萬河限な金



の相方は揚代金は二朱、一兩出すと六人揚げられる一圓で半ダースの女、三月の末のこととふところにはまだ金があるから今日は全盛な遊びをして女をおどろかしてやらうと山城屋に上つた文太郎、女の酌で飲んでゐたが酒が腸にしみると心はますます大きくなる文「一体お前をこゝから根引をするにはいくらあれば素人になれるんだ」

瀧川はこれを見て目を丸くして文太郎を見てゐたが「お前はん何うしたの目の色が變つてゐるよ」文「氣狂ぢやアねえ、縁あつてお前のところへ遊びに来るんだ、身受をして泥水から救ひ出さうと思つた人情だナ、いくらあればこの廓から出られるんだ」瀧「何んだかおまはんのいふことはおかしいわ、わたしが素人になるには、さうさね五十兩はいるぞらう」

瀧「オヤア不思議だね、何うしてそんなに大金をもつてゐるの」文「もうけたのよ安心しろ、泥棒して取つた金ぢやアねえ、出先はたしかだ」瀧「さう、それでは今夜は陽気に遊ばことにしやうね」

と、この山城屋の抱藝妓を二人呼び好きな食物を取りよせ、文さん文さんとまゝ上げて藝妓や娼妓はこゝぞ福徳の三年目と酒を飲みまたは物を食べる、文太郎はこれを見てこゝろ食べられ

文「五十兩か、安いもんだな」

いとつたがふところにあるは五兩二分

文「チト足りねえな、まア何んだ何れもうけることもあるだらうからその時には受け出してやる、ところで今夜は派手な遊びをするんだ藝妓二三疋入れて食物をトンドン運び酒をどしどし持つて来て威勢よく遊ぶことにしやう」

と云ひ捨て忽ち消えてなくなりました、文太郎は泥のやうに酔ひ枕につくと高軒、相方の瀧川は他の客のもとへ出て行つた、夜は次第に更けてもう大引、今で申すと午前二時、賑やかな廓としづかになると一層淋しさを感ずる、すると文太郎の寝てゐるこの部屋に「起きろ」と云ひつゝ枕をポンと蹴ました

店主	が	店員
を	連	れて
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
酒	場	

平・田町
 レストサロン
 電話三五二番

看護婦急派
 求めに應じます

平町南町
 平看護婦會
 電話三〇七

市原醫院
 平町・四町
 電話一一四番

呼吸患救済の王
 陸海軍御用
 帝國大學醫學部御用
 官公立醫學專門學校御用

吸入用酸素
 體溫計 (メートル)

御用命次第迅速に御届け致します
 平町古銀治町一〇縣社ノ下

處方箋調劑所 阿康藥局
 電話 四四四番
 振替口座東京三〇五番

百度有難う存じます
 レスト
 平曾館
 電話 624

吉田眼科醫院
 平紺屋町 電話六八番
 醫學士 吉田久雄

お醬油は……ヤマフル

醬油味贈
 たひら 正宗
 鯉節 食料品

鹽屋
 吉山崎合名會社
 福島縣平町(電話三三三番) 山崎三三三
 明治生命會社代埋店